



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯学教育のグローバル化推進に向けて

歯学部長 宮崎 隆

社会構造全体が大きな変革期を迎えている中、文科省は昨年の秋に、我が国の大学教育の質を保証し、社会から信頼の向上を図るため、大学教育の将来を見据えた中長期的な在り方について、中央教育審議会に諮問しました。諮問内容は大きく、1) 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について、2) グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について、3) 人口減少期における我が国の大学の全体像についてです。歯学教育についても問われているのは同じで、先般、文科省から「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の第1次報告が出され、各大学が個別にヒアリングを受けました。中教審の答申ではグローバル化に関して、1) 大学の国際競争力の向上のための方策、2) 大学の評価における国際的な視点の導入と、世界規模での大学に関する評価活動への対応が求められています。



昭和大学はタイムズ紙の世界大学ランキングで、4年連続上位400校に入り、日本の私立大学では早稲田大学、慶応義塾大学に次ぐ実力と評価されています。本学ではグローバルに活躍する医療人の育成を見据え、多くの海外一流大学との学術交流に取り組むとともに、学生が国際交流の機会を得られるように、海外実習・研修補助金制度を制定し、経費面のサポートをしています。歯学部からも毎年、意欲ある学生が海外実習・研修を受け成果を挙げています。

しかし、今後は学部を挙げて更なるグローバル化に取り組む必要があります。英語が世界の共通語になった現状では、日本だけが日本語完結の教育をしていては、歯学においても先進諸国はおろかアジア諸国にも遅れをとってしまいます。学生だけでなく教員においても、英語コミュニケーション能力の向上とグローバルスタンダードに基づいた専門歯学教育、専門歯科臨床を遂行する必要があります。それができて、本学の優れた研究成果や特徴ある臨床を海外に発信して、国際社会で指導的な立場にたつことが可能になるでしょう。

このたび、機会があつて日本歯科大学と連携し、カナダのトロント大学を国際協力校として、文科省の戦

略的大学連携支援プログラムに応募しました。欧米の主要な大学は自国だけでなく、世界的な視点で教育活動を展開しています。文科省の採択・非採択に関わらず、今後トロント大学の教材を導入して、歯学英語、グローバルスタンダードの専門歯科診療を学習する機会を推進したいと思っています。これは非常に時間のかかる試みですが、本学の勝ち残り卒業生の生涯に亘る活躍のために必要性が高いと思いますので、関係者のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

新型インフルエンザに関する対応について

総合内科 井上 紳

新型インフルエンザA(H1N1)に対して昭和大学病院にも発熱外来が設置されました。現状では北半球で終息に向かいつつあるようですが、これから冬を迎える南半球での流行が懸念されます。抗インフルエンザ薬(タミフル・リレンザ)が有効で、比較的弱毒であるため、国および地方自治体の検疫体制も徐々に緩和されつつあります。日本はこれから梅雨に入るため、高温・高湿度環境で寿命が著しく低下するインフルエンザウイルスの大規模な流行は生じにくいと考えられます。それに対して過去のスペイン風邪などの教訓から秋以降に毒性の増した変異型の流行が懸念されています。歯科病院総合内科では発熱事例に対してインフルエンザ簡易検査を施行していますが幸にしてA型インフルエンザ陽性例をみていません。



「医療機関におけるハイリスク者に関する感染防止策の手引き」が6月1日付にて国立感染症研究所感染症情報センターより発表されました。

要点は外来における飛沫予防策、発熱患者の動線の振り分け、ハイリスク者の外来受診の回避とファクシミリ等による処方せん送付の検討です。ちなみにハイリスク者とは、5歳未満の小児、65歳以上の高齢者、妊婦、慢性の肺/心疾患、肝/腎障害、血液疾患、神経筋疾患、代謝異常を持つもの、免疫抑制状態(ステロイド等の薬剤投与、AIDS)にあるもの、養護施設および慢性介護施設居住者です。歯科病院入口に発熱者に対する掲示を行っておりますが、渡航例およびハイリスク例の受診につきましては事前に総合内科にご連絡をお願い致します。

D1 英語 Placement Test が行われました

富士吉田教育部兼 歯科薬理学教室 山田 庄司

これまで各学部別に行われていた英語の授業が、今年度から学部の壁を越え、能力別の3クラス編制になったことに伴い、クラス分けテスト(placement test)が4月13日(月)の新入生オリエンテーションの初日に富士吉田教育部で行われました。テストはTOEIC Bridge を利用し、全学生 561 名を8教室に分けて、教員 11 名と全教務課職員の協力の下、1時間20分をかけて行われました。TOEIC Bridge は TOEIC より簡単な初・中級英語学習者向けの基礎的な英語能力(リスニングとリーディング)を評価するために開発された世界共通のテストで、全国の平均スコアは高校3年生(9,422人)が117.2、大学1年生(36,255人)が119.8であるのに対し、歯学部新入生のスコアは145.1でした。

前期定期試験期間中には2回目の placement test が行われる予定です。2回目は TOEIC を利用し、後期のクラス分けの資料にするだけでなく、各担当教員による学生評価と共に、前期の成績評価資料として使用されます。

D1 オリエンテーリングが行われました

富士吉田教育部兼 歯科薬理学教室 山田 庄司

5月16日(土)に第2回オリエンテーリングが鳴沢村の「富士緑の休暇村」で行われました。指定されたコースを地図とコンパスを頼りに、寮の部屋単位で割り振られた8名(男女各1部屋)一組で協力しながらゴールを目指します。入学後1ヵ月あまりが経過し、寮生活にもある程度慣れてきたこの時期に、指導担任の先生との親睦を深めることも目的の一つであります。

優勝を狙って全コースを走って回るグループもあれば、談笑しながら新緑の自然を満喫するグループもありました。何名かの先生や事務職員も学生と一緒にコースを回り、日頃の運動不足を解消していました。回り終わったグループから弁当を受け取り、指導担任の先生を囲んで芝生の上で楽しく食事をしながら談笑しました。食後は表彰式が行われ、前半組みの3コースと後半の3コース、計6コースでそれぞれの上位3チームに教育部長から表彰状が手渡されました。午後3時には、後半組のバスも大学に到着し本年度のオリエンテーリングは事故もなく無事に終了しました。



大連医科大学での D6選択実習

D6 17番 奥田 文俊

私が今回の選択実習で中国に行くことを希望した理由は、以前から海外での歯科診療に対し興味を持っていたことと、また中国での歯科についての情報を耳にすることが多く、ぜひ自分の目で見てみたいと思っていたからです。実際にさせていただいた実習は、臨床の場での見学やアシスト、一部の治療もさせていただきました。しかし、何よりも大きな経験となったのは全く考え方や価値観の違った方々と診療中だけでなく、それ以外の多くの時間も一緒に過ごさせていただいたことによって、これから歯科医師になって働くにあたり何が大事かということ、今までとは少し違った角度で考えられるようになったことです。というのも私がお世話になった大連医科大学附属口腔医院のスタッフの方々(教授、ドクター、ナース、大学院生、学生など)の雰囲気というものが本当に素晴らしく、良い意味でフランクな壁のない関係が築かれていたのです。やはり私たちは医療人である前に感情を持った人間であり、その一人一人が気持ちよく仕事をすることによって、結果良い仕事ができるのだと思いました。そしてその上、日本人の特徴である勤勉さがプラスされればきっと、より効率的に仕事ができるのではないかと思います。また今回、私は海外渡航自体が生まれて初めての経験だったので言葉や文化、食事と本当に多くのことに驚き、そして毎日が新たなことの連続で吸収してもしきれないほど多くのことを経験させていただきました。

最後に今回このような貴重な経験をさせていただいた歯周病学教室山本教授、大連医科大学胡教授をはじめ多くの方々に深く感謝するとともに、今後も本学の多くの学生にこのような素晴らしい機会が与えられるよう願っております。



南カリフォルニア大学での D6選択実習

D6 4番 安藤 彰啓

春休みと選択実習の期間を使い2か月間、南カリフォルニア大学(USC)の Orofacial Pain and Oral Medicine Clinic に留学させていただきました。このクリニックの Post Graduate Program はアメリカの歯学部で唯一、修了後に American Academy of Orofacial Pain と American Academy of Oral Medicine の両方の認定医を取得するための試験を受けることができます。昭和大学卒業後はここで Post Graduate Program に参加したいと考えていますので、勉強を兼ねてプログラムの体験をさせていただきました。

滞在中はレジデント1年生と一緒に、Pre-session と PBL の参加、診療の見学とアシストをさせていただきました。



Pre-session とは当日来院予定の患者の概要、治療計画、留意点などをレジデントが指導医と他のレジデ

ントに発表をする時間で、それに対して指導医の先生方が解説や勉強すべきポイントを教えます。このクリニックのレジデントは皆すでに他の分野の専門医であったり、PhD を取得したりしているので、レジデントと指導医のやり取りはとても高度なものでした。

PBL は Internal Medicine, Geriatrics, Headache の3つのクラスに参加しました。それぞれのクラスで私も学習項目をもらい、リサーチをして次の PBL session 時にプレゼンテーションを行いました。特に Headache の PBL では、Dr. Clark が出題した12問の問題に対し21ページにわたるレポートを書いて提出しました。解答するためには多くの論文や教科書を読む必要があったので、とてもよい勉強になりました。

Orofacial Pain and Oral Medicine は日本ではあまり一般的な診療科ではないため、USC で勉強することができたのはとても貴重な体験となりました。また、この分野に関わっている大勢の Doctors と知り合えた事も大変貴重な経験だったと思います。Orofacial Pain and Oral Medicine について高度なレベルで勉強することができて、この分野に対する勉強意欲も一層増しました。この留学を実現するために協力をしていただいた大勢の先生方に、心から感謝致します。

第19回 ICOMSに参加して

顎口腔疾患制御外科学教室 南雲 達人

5月23日から28日まで中国・上海で開催された第19回「International Conference on Oral and Maxillo-facial Surgery」に参加してきました。あいにく新型インフルエンザの世界的流行と重なり、日本からの参加者は少なかったのですが、開催国の中国はもちろん、アメリカ、ロシア、アフリカなど様々な国の方が参加されていました。本教室からは私のほかに、佐藤（華）先生、葎葉先生が参加され、3人とも oral presentation で発表を行いました。不慣れた英語での発表で3人とも緊張しましたが、それぞれの発表に対して質問もあり、とりあえず満足いく発表はできたのではないかと思います。



発表の合間を使って上海の町を観光しましたが、上海の高速ビル群を見て(2010年上海では国際万博が開催される予定であり、現在建設ラッシュ状態でした)、急速に成長する中国のパワーに圧倒されてしまいました。

様々な国籍の先生との交流、異文化に触れられ、大変有意義な6日間でした。次回のICOMSは2年後の2011年チリのサンティアゴで開催されます。次回も参加を目指して、研究をがんばりたいと思います。

IDS 2009に参加して

歯科補綴学教室 樋口 大輔

ケルン国際デンタルショー(IDS)は2年に一度開催される世界最大のデンタルショーです。今年は出展企業57カ国1820社、ビジター10万6千人の規模で3月24日から28日まで開催されました。会場は13万8千平方メートルと、展示を見るだけでも2、3日は必要な規模です。日本のデンタルショーとの違いは規模だけでなく、実際の患者でのインプラント埋入オペの公開やホワイトニングの体験等、かなり日本とは事情が異なります。他にも、各ブースではドリンクサービスとしてコーヒーやソフトドリンクだけでなく、パンやスナック、さらにはビールのサービスも行なうメーカーもありました。今回はストローマン社のガイドサージェリーシステム初公開が最大の目的でした。実際の器具を用いた講習を受け、手順を学ぶことが出来ました。これまでインプラントメーカー主体によるガイドサージェリーシステムはノーベルガイドが先行している状態でしたが、今回のデンタルショー以降、ストローマン社だけでなくザイブインプラント(デンツプライ社)からも発売が予定されていることから、最小侵襲を目的としたインプラント治療の一つの方向性が今回のIDSからも示されていたと感じられました。その他、新しい商品としては、DMG社からの i-con システムが公開されていました。これはMIの考えから初期の齶蝕治療を行う材料で、会場での講演や講習など多くの歯科関係者の関心が向けられていました。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 7月3日(金) | : 夏期スポーツ大会壮行会 |
| 7月4日(土) | : 第29回昭和歯学会総会 |
| 7月24日(金) | : 3学部合同オープンキャンパス |
| 7月29-31日 | : 第14回昭和大学歯科医学
教育者のためのワークショップ |
| 8月1日(土) | : 歯学部オープンキャンパス |
| 8月22日(土) | : 歯学部オープンキャンパス |

平成 21 年度父兄会総会開催される

歯学部長 宮崎 隆

平成21年度父兄会総会が、去る6月20日午後2時から本学上條講堂に於いて開催されました。非常に蒸し暑い日でしたが、会場は超満員の出席者でした。四ノ宮父兄会長の議事進行により、平成20年度の決算、および平成21年度の事業計画と予算案が承認されました。昨今の経済状況を勘案し、父兄互助会費を減額する案とそれに伴う父兄会諸規則改正案が承認されました。歯学部の会費は、第1学年が年額3万円、第2学年以上が年額4万4千円となりました。同日は総会に先立ち、午前11時半からD6父母説明会、引き続き午後1時からD6学生説明会が開催され、立川学生部長から国家試験対策および大学院制度等について、上條D6チューター会議長から国家試験の現状分析について、井上教育委員長から卒業判定について、古屋臨床研修医マッチング支援委員長から卒業研修制度について、そして長谷川歯学教育研修センター長から本学歯科病院の研修プログラムについて説明がありました。

総会終了後、各学部に分かれて、歯学部会が4号館6階600号室で大勢の出席を得て開催されました。宮崎学部長から歯学部の現状とさらなる評価向上を目指して挨拶があり、立川学生部長から国家試験のデータ紹介と井上教育委員長から教育全般に関する説明がありました。

最後は7号館に会場を移し、4時15分から4学部合同の懇親会が開催されました。こちらにも多数のご父母の参加があり、細山田学長、各学部長を交えて楽しい歓談をし、午後5時半過ぎに散会しました。

CBTワークショップが開催されました

CBT委員長 五十嵐 武

去る5月23日(土曜日)に旗の台校舎1号館5階のカンファレンスルームとPBL室にて、40名の参加者によるCBTワークショップを開催しました。

当日は午前9時の宮崎歯学部長の挨拶に始まり、CBT評価機構からタスクフォースとしてお越しいただいた小口春久先生と天野修先生にA問題(5肢択一)、W問題(2連問)、Q問題(4連問)に関する作問・ブラッシュアップ等の方法を、実例を踏まえてご教授いただきました。参加者は事前に作成してきた関連領域の問題を5つのグループに分かれて熱心に討論・修正し、その後の全体ブラッシュアップにより他グループからの質問・指摘、さらに小口先生、天野先生からのご助言により良問の作成方法について学びました。最後に宮崎歯学部長から参加者一人ひとりに修了証書が授与され、午後5時に終了いたしました。

ワークショップ開催に当たっては、歯学部教務課の古矢さん、和田さんの事前準備に加え、当日の運営

に当たってくださった馬谷原先生(歯・教育推進室)に深く感謝いたします。今回の経験をもとに各教室からより良い問題が提出され、採択率の向上に繋がることを期待いたします。歯学部教員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

受賞

広報委員長 井上 富雄

・久光 久(歯科保存学講座 教授):6月11日、12日に札幌で開催された第118回日本歯科保存学会で日本歯科保存学会賞を受賞されました。

・栗山壮一(歯科理工学 大学院3年):6月6日、7日に京都で開催されました、第118回日本補綴歯科学会で優秀ポスター賞(DENTSPLY Award)を受賞されました。
演題名:「セラミック接着ジルコニアブリッジの開発」



大学院歯学研究科入学試験日程が決定

大学院運営委員長 上條 竜太郎

平成22年度大学院歯学研究科の入学試験の日程等が下表の通り決定しました。本年度も社会人特別選抜を併せて募集します。詳細は募集要項(近日中に教務課にて配布予定)をご覧ください。

	試験日	出願期間	合格発表	入学手続
I期	H21年 12月5日 (土)	H21年 10月1日 (木) ~11月20日 (金)	H21年 12月17日 (木) 正午	H21年 12月18日 (金) ~12月24日 (木)
II期	H22年 2月20日 (土)	H21年 12月7日 (月) ~H22年 2月4日 (木)	H22年 3月3日(水) 正午	H22年 3月4日(木) ~3月10日 (水)

診療統計(平成21年5月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	15,637	679.9	733.0	703.5
入院患者	438	14.1	14.2	15.1

編集後記

歯科理工学教室 堀田 康弘

本格的な梅雨に突入するこの時期、新型インフルエンザの脅威を忘れがちですが、体調管理を怠らないようにしましょう。今月も、皆様お忙しい中、原稿依頼を快くお引き受けいただきありがとうございます。